

今年も明るく元気に！

パッチワーク愛好会の皆さんは、東地区公民館に毎月2回集まって作品作りを楽しんでいます。「見ざる・聞かざる・言わざる」ならぬ「見て・聞いて・しゃべって」新年も元気に過ごしたいですね。



平成28年

1

No.659

新年あけましておめでとうございます。

時を重ねて、暦は確かに新しい年を刻み込みました。日々の営みの繰り返しの「普段」と、何とも御しがたい「予定・想定外」の「非常」をも乗り越え、個として、はたまた公として新年の日の出を迎えています。大江町の57年目の新年であります。皆さまには、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げ、あわせて、旧年中に賜りましたご指導とご厚情に御礼申し上げます。今年も、旧年に倍するご厚誼とご教導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、山形経済同友会から、「水郷大江夏まつり灯ろう流し花火大会」が、数ある県内の景観の中で最高賞の県知事賞の榮譽に輝きました。町のだ真ん中で、心臓を抉るような弾ける爆音・山から、河岸から、平場からの三カ所同時打ち上げ・最上川の流れに揺蕩う灯ろうの灯火、花が開いて、流れ、留まり、消え行く天空を焦がす色とりどりの花火、大江町の花火の「実力」が認められました。同時に、「夏まつり花火大会」にかける大江町民の「総意としての情熱の実力」が認定されたと受け止めております。歴史をつくり、次代

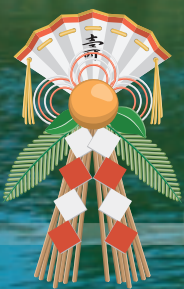
に継承する責務の自覚と、真摯な努力への高い評価であります。今回の榮譽を大江町民の実力として、共々の明日への力にしたいものであります。

開設した「やまさあーべ旧七軒西小学校」は、期待を超える利用者数で、昨年開催された「全国山菜サミット」も大盛況となりました。JAの関係者、商工会、観光物産協会、七軒地区、さわらび会、地域おこしの方々……一丸となつての「盛り上げ」は見事なものであります。関係各位に御礼を申し上げます。基調講演で久保木シェフは、懐深く、遠目と近目を読み切り「山菜と地域」の通時的相関を披歴され、参加者に大きな山菜の展望と魅力を実感させ、山棲み生活のプライドを確信させていただきました。「食」の「自然と旬」は不滅の想念で、大江町にとつての至宝であります。東京で大江町の山菜販売の第一歩になる年であります。東京から見れば、大江町は一地方ではありませんが、大江町から見れば、東京もまた地方なのであります。大江町全体を網羅する「防災無線」が完成いたします。瞬時に、的確な情報を音声で伝達可能な「ラッパ型スピーカー」が設置され、非常時に

は緊急通報として危険の度合いを認識できるようなシステムであります。非常時だけではなく、平時にも音声による「明るい町づくり」に、活用したいものであります。町のニュース、イベントのこと、学校のこと、地域のこと……。

藤田地区に造成した新しい住宅団地は、早くも半分近くが分譲され完売に向け明るい見通しがあります。子育て世代の新しい町。ご協力いただきましたすべての関係各位に感謝申し上げます。近隣の町へのアクセスの良さもあり、素晴らしい宅地でもあります。夏の花火を寝ころんで、親戚縁者と懇談しながら、かすかな川風、緑の木陰の子どもの笑い声……大江町の未来の見える町になります。次の団地は、どんな場所に、どんな町を、新たな団地造成に町民各位のご協働とご支援を。

「中央公民館」が7月に完成します。図書館もできます。生まれたての公民館は、町民全員で育てていきたいものであります。語らいの場・学びの空間・議論や交流や式典の場として、利活用が町内外に広がるような柔らかい思考で運営方式を編み出していただきたいものであります。体育センター、保健センター、歴史



平成 28 年

新春のごあいさつ



大江町長
渡邊兵吾

民俗資料館と並立する環境は、町民一人ひとりにとって「文武」の拠点となり、「文化と歴史」の殿堂となり、食に関わる事業の展開と健康管理の連携が「ワンストップ」で可能な「夢多い空間構成」となりうるものであります。

「地方創生」に、安全・安心はもとより、安定した持続可能な社会創生に向けた「具体的事業」が求められています。「あるもの」をどうかし何を生み出すか、「ないもの」で生活に必須なものをどうつくりだすか、真剣勝負の年、町民各位のご指導とご厚誼を重ねてお願い申し上げます。皆さまにとって良いお年でありますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。

新春座談会

若者たちが語る夢



平成27年は町内で多彩なイベントが開催され、あらゆる世代の町民の皆さんの活躍が光る1年でした。とりわけ、ふるさとであるこの町を活性化させようと、日々活動に取り組んでいる若い世代の輝きは目を見張るものがありました。

そこで新年を迎えた今、農業、商店経営、デザイン、観光PR、地域おこしと、さまざまな分野で活躍している5人の方々に、山里交流館「やまざあーべ」に集まっていたいただきました。それぞれの町へ寄せる思いを、渡邊町長とともに熱く語る若者たち。今年、そして将来に向かって、彼らはふるさとでどんな夢を思い描いているのでしょうか。

それぞれの思い 昨年を振り返って

町長 今日お集まりの皆さんは、それぞれ夢を持って具体的に活動しているのが素晴らしいですね。それぞれの年齢や職業は違っても、この町に強い思いを持っているという意味で、立っている場所は同じではないかと思えます。皆さんが活動をしている中で感じたことや、町のどんな魅力を発信していきたいかなど、それぞれの思いを聞かせてもらえますか？

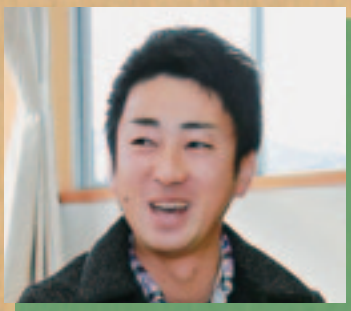
明石さん 農業大学校時代、サクランボの「Y字仕立て」という栽培方法を知り、その斬新な農業スタイルに衝撃を受けて、自分も大江町でやってみたいと思いました。それが、

現在までサクランボづくりに取り組

み続けるきっかけとなり、昨年の品評会での最優秀賞という結果に結びつきました。同じように、今度は私がこの町でサクランボをつくっている姿が、これから農業の道に進もうとしている人にとってのきっかけに、そして町全体がさらに良くなっていくための発信源になればと思います。大江町は山地が多くて寒暖差が激しいので、他のどこよりも品質の良いサクランボができると考えています。長年にわたって自然が育んできた土や水に加えて、私の家では父の代から自家製堆肥を使用し、愛情をこめてサクランボを育てています。

町長 明石さんは積み重ねられた伝統を引き継ぐとともに新しいことに挑戦してきたわけですが、そうした意味で佐藤さんはどのような思いを

「日本一のサクランボ農家」という夢を追っています



すすむ
明石 晋さん (12区)

家業の農業を引き継ぐため、新庄市にある農業大学校に進学。卒業後、さまざまな手法を取り入れながら果樹と水稻の栽培をおこなっている。「OSINの会」の新規就農者受け入れ農家に登録し、また農協青年部の活動として食育などにも積極的に取り組んでいる。

今年の漢字：「繁」

今年食べたいもの：やまがた地鶏の料理

子どもからお年寄りまで楽しめるから、雑貨は面白いですね



だいすけ
佐藤 太相さん (8区)

大学を卒業した後、実家である「山十呉服店」の経営を引き継いで6年目。カジュアルな洋服や雑貨、小物なども取り入れて幅広い世代に楽しんでもらえるお店を目指している。また、商工会青年部、寒河江青年会議所などの役員として、地域経済発展のためにさまざまな活動をおこなっている。

今年の漢字：「動」

今年食べたいもの：あんきも雑炊

持っていますか？
佐藤さん 私の店は曾祖父の代に始まり、私で4代目になります。大学時代、流行のファッションなどを勉強しているうちに、幅広い世代が好む雑貨や小物に興味を持つようになりました。実家に戻ってから、お店の一角に自分のコーナーを設けて雑貨や小物を並べてみたところ、子どもからお年寄りまで気に入って買ってくれる方が意外に多くいらっしゃいました。それが私の店の面白い部分になってきていると思います。昨年開催された「SHAKE LAB」は、いろんな人がこの町のために頑張っているということが分かって面白

かったですし、情報発信は今でもさかんにおこなわれていますが、課題はどうやってそれを引き継いで発展させていくかということですね。地元の良さは住んでいるとなかなか分からないので、若い人たちにとっては、一度町の外に出て勉強してみることが大事ではないかと思っています。
町長 昨年、町の中学生海外派遣事業でアメリカのモンタナ州に行った生徒たちは「世界観が変わった」というほどの衝撃的な思いをしたようです。外の世界から自分のふるさつを見るところは、重要なことかもしれないですね。大沼さんは、「SHAKE LAB」を企画してどんな

感想をお持ちになりましたか？
大沼さん 若者をはじめ、この町でがんばって活動している人はたくさんいるのですが、今までそうした人たちが一堂に会する機会がありませんでした。そういった意味で、「SHAKE LAB」は自分がやってきた取り組みのまとめであると同時に、町でがんばっている人たちの集大成にしたいと考えて企画したものです。こういうイベントがあれば、町内外の人たちに活動の身を分かってもらえるようになるし、これからの活動もやりやすくなるのではないかと思います。また、個性的な作品も型にとらわれない視点で見

もらえる場があれば、「こういうものがあってもいいんじゃないか」という考え方が町民の皆さんの中にも湧いてくるかもしれませんし、「自分にもこういうことができる」という方がどんどん参加してくれるようになるのではと期待しています。
町長 独創的な作品、個性的なアートもありますが、見る人が感じたままに楽しんでもらえばいいと思います。一方で「シェイカー」は大変分かります。このメンバーの中で一番賞禄がありますね。
堀さん 「憑身シェイカー」のコンセプトは1年ほど前から考えていて、町の「やる気↓元気活動支援事業」

地元の皆さんのがんばりを 1本の線で繋げたかったんです



大沼 兄昌さん(13区出身)

東北芸術工科大学在学中に、大江町の集落活性化をテーマとして研究。現在は仙台市に在住し、グラフィックデザインの仕事を手がけながら「OE REPOWER PROJECT」を立ち上げ活動中。昨年「大江町の博覧会 SHAKE LAB」を企画し、町内3会場で開催した。

今年の漢字：「朗」

今年食べたいもの：地元の手作り料理

のことを知って、申請してみようと思いいちました。コスチュームが完成してから初めて出演したイベントで、小さい子どもたちがシェイガーの頭の部分に反応してくれたのが意外でしたね。シェイガーのモデルである「ヤマガタダイカイギウ」は、化石が発見された40年ほど前は大きい盛り上がったものの、今では知らない人も多くなっているようです。PRしていきたいですね。

大沼さん

山形県立博物館にはヤマガタダイカイギウの骨格が長年展示しており、係員の方も力を入れて解説してくれます。発掘地である大

江町でPRの動きがないのは、とても残念です。

町長

本町で「世界に一つしかないもの」として、ヤマガタダイカイギウが挙げられます。レプリカの展示方法などを工夫すれば、もっと多くの方に知ってもらうきっかけになるかもしれません。さて、野木さんはこの町に来て約半年になります。実際にこの町に住んでみてどのような感じにいますか？

野木さん

地域おこし協力隊としてこの町に来るにあたり、「こんなことをしてみたい」という自分なりのテーマを考えていました。でも、実際に沢口地区に住んで地域の皆さん

「シェイガー」をきっかけに 町の魅力を知ってほしいです



堀 大介さん(富沢)

左沢高校3年生。昨年、ヤマガタダイカイギウをモデルにしたヒーローキャラクター「憑身シェイガー」を考案し、町の補助事業を活用してコスチュームの完成にいたる。町内外のイベントに積極的に出演し、ツイッターなどでも交流の輪を広げて幅広く活動中。

今年の漢字：「挑」

今年食べたいもの：青芋料理

とお話していくうちに、やりたいことは大きく変わってきましたね。「やまさあーべ」は地元の皆さんの思い入れがとて強い施設なので、誰もがと気軽に足を運んで、お茶会などもできるような雰囲気になればと思います。また、11月から「あどぼい日記」という手書きの活動日誌を作って、七軒地区の各世帯にお配りしています。「あどぼい」というのは「おいしいものを食べた時に、クセになってどんどん食べてしまおう」というような意味です。外から来た私にとって、「大江町のこんなことが面白い」と思う日常を書きとめた「お手紙」のようなものなので

町長

日常のささいなことでも話が弾むのは、本当に楽しいひとときですね。野木さん自身が楽しんでいる雰囲気が、地域の皆さんにも伝わっているのではないのでしょうか。

ふるさとに見る夢を 叶えるために

町長

大きなイベントだけではなく、大江町の魅力を日常的に楽しめるような時間と空間があったら、町の将来はすぐく明るいのではないかと私は思います。そうした視点も含めて、皆さんの今年の、そして将来の夢を

地域の食文化をいつまでも
残していきたいですね



野木 桃子さん (沢口)

福島県伊達市出身。特別養護老人ホームでの栄養士の仕事を経て、昨年6月から本町の地域おこし協力隊として沢口地区に移住。主に七軒地区を中心として、栄養学の知識を生かしながら地域おこしのためにさまざまな活動をおこなっている。

今年の漢字：「楽」

今年食べたいもの：旬の山菜

語っていただけますか？
佐藤さん 現在、私が第一に考えるのは自社の発展なのですが、今年、寒河江青年会議所の青少年育成委員会の委員長を務めることになり、将来を担う子どもたちの育成と、児童文化賞という事業を大江町にて計画しています。でもその前に、子どもたちより自分が楽しみたいと思いません。
町長 何をするにも、自分自身の生活の基盤や健康状態がしっかりしていなければいけませんからね。それはとても大切なことです。大沼さんはどうですか？
大沼さん 自分の仕事に関して言う

と、デザイナーの仕事はカッコいいものを作る以前に、機能性を考えて設計しなければいけません。「餅は餅屋」という言葉がありますが、私はすべての人がそうあってほしいと思うんです。どんな分野でも、プロの仕事には他人が想像もつかない苦労や、長年のノウハウの蓄積があります。町民の皆さんも「これはあの人に任せれば間違いない」というように、他の人の良いところを認め合えるようになってほしいし、「SHARE LAB」がそのきっかけになればという希望を持っています。
町長 デザインというのは、機能性を追求すると自然と形ができてくる

ものだと思います。そういう意味で、シェイガーのデザインは「当たった」と言えるのではないのでしょうか。堀さんの夢は何でしょう？
堀さん 私はご当地ヒーローとしてのPRを通じて、他のいろいろな活動をされている方の助けになるようなことをしたいです。今一番やりたいと思っているのは、観光案内ですね。大江町には面白い場所がいっぱいあるので、まずはシェイガーに興味を持っていただいて、その人たち

をいろいろな場所に案内すれば「この町には面白いことがいっぱいあって、何でもできるんだ」と感じてもらえるんじゃないかと考えています。
町長 まず自分に興味を持ってもらい、他の活動をしている方たちのバックアップに繋がっていくという発想はすごいですね。野木さんはいかがですか？
野木さん 昨年、この「やまさあーべ」で七軒地区の主婦の皆さんがくださった漬物を味わってもらい、その



場で買うこともできるというイベントをおこないました。そうした活動を通して、「食べること」は「後世に残すこと」であり、「知恵を繋いでいく」ことだと実感したんです。地域ならではの食文化は、食べてみないと分からないものです。そうした地域の「味」を何とか残していきたいですね。また、昨年12月から私が担当するようになった高齢者の方への配食サービスでは、献立を考えたり一口メモを添えたりしています。そうした自分の栄養学などの知識を生かして、地域の魅力を少しずつ発信していきたいと思っています。それに加えて若い人にも興味を持ってもらえるよう、漬物と西山杉で作った食器を組み合わせるなど、いろいろなものをかけ合わせて、知らない人でも入りやすいような形づくりも考えたいです。

佐藤さん 「入りやすさ」という点では、私の店も「高級そうに入りにくい」とよく言われるんですよ。そういうイメージをどう崩していくか、ということでも悩んでいます。

町長 今は「食」に関して選択の時代ですから、提供する側もどこに絞って売り込んでいくかということを考えてはいけませんね。

明石さんはどうですか？

明石さん 私は20歳の時から「日本のサクランボ農家になる」という夢をこの町で追い続けて、今もがむしゃらにやっている途中です。でも自分だけではなく、周りの仲間たちも一緒に良くなっていかないと、地域全体が良くなれないと思います。農業者人口が減少している中、平成25年に「OSINの会（新規就農者受入協議会）」が立ち上げられて、これまで研修生と家族を含めて20名以上がこの町に移住してきています。そうした熱意を持って外部から来た方と、地元に住んでいる人々が相乗効果を生み出し、農業界もこれから



もっと盛り上がっていくのではないかと期待しています。私も新規就農者の受け入れ農家に登録していて、今年の春から東京出身の研修生を2年間受け入れることになっています。私自身の失敗した経験も含めて伝えられるだけのことを伝えたいし、情熱を持っている研修生の夢を全力でバックアップしていきたいです。

最大のイベント

花火大会への思い

町長 昨年、山形経済同友会の「地域づくりのやまがた景観賞」で、大



江町の「水郷大江夏まつり灯ろう流し花火大会」が最高賞の県知事賞を受賞しました。県内で最も歴史が古という花火大会の伝統と、町民の皆さんの取り組みが評価されたのだと思います。最後に皆さんの花火大会への思いを一言ずつお願いします。

明石さん 小さいころ、花火大会というと前の日からワクワクするくらい楽しいイベントでした。親戚がみんな集まって、にぎやかな中で花



火を見ていたという思い出がありません。皆さんがいろいろな思いを寄せ、花火を見て思うので、町になくはないものだと思います。

佐藤さん 私も小さいころに8区の朝日太鼓で関わりがあり、その後は商工会青年部を通じて御神火事業に携わっています。形は変わってもずっと関わっているの、思い入れ



が深いですね。昨年からは新しい趣向も加わったので、これからはぜひ多くの方に見ていただきたいです。

町長 時代の変化を読み取って、魅力的な花火大会を続けていくためには、伝統は守りながらも少しずつ進化していくことが必要かもしれませんね。

大沼さん お盆ということで、町外にいる親戚や友達が集まってくる時期におこなわれるのが花火大会です。みんなが集まるイベントとしてこれほど良いものはないと思います。例えば京都の大文字送り火のように、人々がそれを目指して集まってくる

場所になるくらい、もっと発展させたいですね。

堀さん 町内で一番人が集まる催しなので、他のイベントなども並行しておこなえば、相乗効果でもっと盛り上がると思います。大江町でとれた農産物や、町ならではの商品などを売るお店を出してみるのもいいのではないのでしょうか。

野木さん 伝統と世代を繋ぐ花火大会だと思っています。昨年初めて見に行ったとき、地域の方に浴衣を着せてもらったり、履物を貸してもらったりしました。本来、世代を越えて交流できる一大イベントだと思うので、山間の地域からそんな風にして花火を見に行くという光景が、また見られるようになったらと思います。

町長 花火大会の日は柳川温泉と役場を結ぶ無料送迎バスが運行するのですが、移動手段だけではなく地域の方をお誘いして、食事などもしながら花火を楽しんでいただくといった企画も考えるべきだという意見があります。町全体のイベントだという意識を持って、町民全員が楽しめるようにしたいものですね。

皆さん、今日は本当にありがとうございました。これからも、どうかいろいろと力を貸してください。



11/21 絵本でのびのび孫育て

お孫さんをもつ方や、もうすぐ生まれる方のための「孫育て講座」が、11月21日に東地区公民館で開催されました。この講座には16名の大人と5名のお孫さんが参加。「おはなしとつって遊ぶの会 紙ふうせん」代表の渡邊裕子さんから、絵本を読み聞かせる効果や絵本の選び方、読み方などについての講話を聴きました。また、渡邊さんの読み聞かせの実演もおこなわれました。

参加者からは「子どもに返ったようで心あたりました」「読み聞かせもあり、孫も楽しく過ごせました」といった感想が寄せられました。



11/28 青芋のひやむぎ 優秀賞受賞

本県産の農林水産物を原料とした食品の優良事例を選考する「やまがたふるさと食品コンクール」で、本町の「真麻ひやむぎ」が優秀賞を受賞しました。11月28日の表彰式には、販売元の榎大江町産業振興公社の鈴木社長と、青芋復活夢見隊代表の村上弘子さん（藤田）が出席しました。

真麻ひやむぎは青芋の葉のペーストを麺に練り込んでおり、栄養分も豊富です。審査では「青芋と山形の歴史を感じさせる」と高評価を受けました。今回の受賞による知名度の向上と、販売の拡大が期待されます。



12/1 手作りの楽しさ つりびな飾り

家庭にあるあまった布や古い布を利用してつりびなを手作りする「つりびなのお細工物教室」が、11月17日から東地区公民館で開講されています。2回目の講座となる12月1日は、かわいいミニうさぎの製作に挑戦。受講者の1人は「去年の冬に参加して、とても楽しかったので今年も申し込みました」と話し、他の参加者の方と楽しく談笑しながら布選びや縫い付けをしていました。

教室は2月まで5回にわたっておこなわれ、受講者が製作した作品は、3月9日から東地区公民館のハワイエに展示される予定です。



12/2 男の料理は大胆かつ繊細

男性を対象として食を通じた健康づくりに興味をもってもらうための「男の料理教室」が、12月2日に保健センターでおこなわれました。

この日チャレンジしたメニューは、「五目ぶかし」と「鮭の南蛮漬け」など4品です。エプロンと三角巾を身につけた参加者たちは、食生活改善推進員のアドバイスを受けながら、役割分担をして調理を進めました。参加者の1人は「いつもは食べる専門です」と話しながらも、手際よい包丁さばきをみせ、完成した「男の料理」をおいしく味わっていました。



12/6 見つけて生かそう「地域の寶」^{たから}

地域の将来を考える「七軒西地区の『地域の寶』探し集会」が、12月6日に山里交流館「やまさあーべ」で開催されました。この日は七軒西地区の住民の皆さんなど約40名が参加し、ワークショップ形式で地元の弱い点、強い点、使えるもの、不安なことを挙げ、それをどのように伸ばしたり、改善したりしたら良いかを考えました。

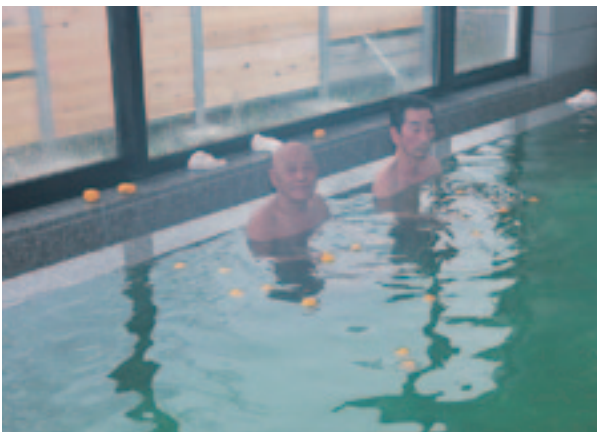
「神通峡にトロッコを復活」や「古民家を活用した農家レストラン」「温泉付きの宅地整備」など数々のユニークなアイデアが生まれ、活発な話し合いがおこなわれました。



12/9 お達者な秘訣は笑いにある

町の地域包括支援センターがおこなう「お達者教室」の出前講座が、12月9日に東地区公民館で開かれ、町の老人クラブ連合会女性会員約50名が参加しました。

この日は笑いとヨガの呼吸法を組み合わせた「ラフターヨガ」を体験。ラフターヨガとは、笑うことで多くの酸素を体内に取り入れ、ストレス解消や血行促進、免疫力向上などの効果をもたらすエクササイズです。参加者は手を動かしたり歌を歌ったりしながら大笑いし、心身ともに爽快な気分になっていました。



12/13 ゆずの香りでぽかぽかリラックス

町の温泉を利用する皆さんにより温まっておうと、12月13日にテルメ柏陵健康温泉館と柳川温泉で湯船にゆずを浮かべた「ゆず風呂」が登場しました。このゆずは栃木県茂木町の地域おこし団体「ゆずの里かおり村」からいただいたもので、平成22年3月に同団体の石河智舒さんが本町で講演をおこなった縁により毎年贈られています。ゆずは町議会12月定例会でも議場に飾られ、さわやかな香りに包まれながら議事が進められました。

この日は午前中からたくさんの入浴客がゆず風呂につき、体の芯まで温まった様子でした。



12/11 小さなキャップが命を救う

海外の子どもたちにワクチンを送るため、ペットボトルキャップの収集活動に取り組んでいる大江中学校の生徒たちが、集めたキャップを12月11日に山形銀行左沢支店へ寄託しました。この日は生徒会長の井上真純さん（8区）と副会長の安達海渡さん（藤田）、同じく副会長の伊藤碧さん（小見）が生徒を代表してキャップを手渡しました。

生徒と町民の皆さんの協力で集まったキャップは約10万個。約120人分のワクチンが開発途上国の子どもたちに届けられます。生徒たちは「来年以降もぜひ続けたいです」と話していました。

思い出の

まいぞうひん

My 蔵品

皆さんの心に残る思い出の品を、それにまつわるエピソードとともにご紹介します。



観測所を持たないため、日頃の観望や星食の観測の際は、このように家の前に望遠鏡を組み上げます。道を歩く人が望遠鏡をのぞいたり、観測に加わったりすることもしばしばです。20年前に購入し、年に数回ある星空教室の時には月や木星、土星を高倍率で、星雲、星団は低倍率で観てもらって、宇宙の不思議を感じていただいています。また設置と撤収が20分ほどでできるので、星の見えない夜は遠征と称して、晴れ間を求めて出かけることもあります。

(7区 富樫 啓)

★皆さんの思い出の詰まった「宝物」はありませんか？ 懐かしい写真、長年愛用している道具、旅先で購入した記念の品など、なんでも結構です。総務課情報システム係 ☎(62) 2187まで、ぜひお知らせください。

戸籍のまど

11月21日～12月15日受付分

お誕生おめでとう

区名	氏名	性別	父母名
下北山	庄司 柊 ^{しゅう}	男	恵介・綾子
堂屋敷	大泉 ^{あかり} 明香里	女	徹朗・由美

ご結婚おめでとう

区名・出身地名	氏名
深 沢	菊地 亮太
伏 熊	鈴木 妙子

ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
深 沢	鈴木きみゑ	(97)
小 見	伊藤 吉雄	(73)
深 沢	菊地源太郎	(85)
12 区	福井 節子	(82)

※掲載を希望しない場合は、届け出の際にお申し出ください。



あ けましておめでとうございます。旧年中は町内各地でたくさんの方々に出会い、地域や自然、町おこしの取り組みなどについて数々のことを教えていただきました。私の今年の漢字は「充」。今年も多くの出会いと発見に恵まれ、昨年以上に充実した1年になればと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(伊藤智治)